

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	運動療育センターすきっぷ 下原教室		
○保護者評価実施期間	令和 8年 3月 3日		～ 令和 8年 3月 10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	31家庭	(回答者数) 26家庭
○従業者評価実施期間	令和 8年 3月 10日		～ 令和 8年 3月 17日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9名	(回答者数) 9名
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8年 3月 28日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	お子様の特性等を理解した療育・支援	日頃の支援では応用行動分析の視点を基に、行動の背景や要因を全職員で共有し、会議等で検討を行っています。 また、面談時には保護者様から特性や家庭での様子を丁寧に聞き取り、適切な支援につなげています。	職員に対する研修の充実やオン・ザ・ジョブ・トレーニングの強化を図り、応用行動分析に基づく基本的な視点について、すべての職員が理解し実践できるよう教育体制の整備に努めていきます。
2	特性等に応じた専門性のある支援	運動を通して日常生活や社会生活の困りごとの軽減を図り、「できた」という成功体験を積み重ねられる療育を大切にしています。専門的知識に基づき、運動が脳や心に与える影響や動作獲得につながる支援を行っています。また、多職種の視点を活かした機能訓練を計画的に実施し、ICFの考え方に基づいて課題の原因や背景を分析したうえで、個別の支援計画を検討しています。	専門職のスキル向上を目的とした研修の充実を図るとともに、課題の抽出やお子様の特性に応じた療育方法の選択・実施ができるよう、すべての職員が理解し実践できる教育体制の整備に努めていきます。
3	計画内容に沿った支援	個別支援計画に基づいた約束事を提示し、応用行動分析の視点で望ましい行動を分かりやすく伝えていきます。実行しやすい環境設定を行うとともに、習得した行動の汎化を意識した支援を行っています。	すべての職員が理解し実践できる教育体制の整備に努めていきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域との連携のイベントが少ない	日々の業務の中での時間的余裕のなさ 会議や地域との関係づくりに十分な時間を割けない現状 地域側の理解や受け入れてもらうことに対する取り組みができていない	地域の施設等へのあいさつ回り、地域の方への発信方法の検討など
2	保護者様への研修や情報共有の場が少ない	日々の業務の中での時間的余裕のなさ 会場の確保や内容の精査等のための時間確保	日々の業務等の改善
3	家庭でのペアレントトレーニングが少ない	サービス提供時間との兼ね合い 必要のある保護者様の理解 取り組み内容の発信ができていない	取り組み内容の説明と発信